

日本映像学会第51回全国大会 神戸大学

5月31日（土） 11:00 受付開始（神戸大学百年記念館）

12:00 - 12:30 神戸大学・山口誓子記念館見学ツアー

13:25 - 13:30 開催校挨拶（神戸大学百年記念館）

13:30 - 16:30 シンポジウム「震災映像のデジタル・アーカイブと記憶の継承・活用」（神戸大学百年記念館）

17:00 - 19:00 懇親会（瀧川記念学術交流会館1階）

6月1日（日） 9:15 受付開始（農学部B棟1階エントランス）

	A B202教室	B B301教室	C B302教室	D B304教室	E B402教室	F B201教室	G B203教室
① 10:00 - 10:30	A1-1 柴田康太郎 大正期の映画供給体制と札幌の映画館：九島興行関連資料を中心に	B1-1 木羽 康真 1920年代のドイツ映画におけるOriginalとFormatfassungの作品比較 ——U.A.カザールの遺したフィルム『Ins Wunderland von Zermatt』の調査——	C1-1 朴 志元 韓国におけるキリスト教映画の転換点 —1980 年・1982 年の大鐘賞（デジョン賞）の動向から	D1-1 遠藤 祐輔 中平卓馬の後期カラー写真における変遷—飛ばない鳥による「動物園鑑」の拡張	E1-1 水野勝仁 VR体験をしているマウスにとっての映像とは何なのか	F1-1 福島 可奈子 関東大震災イメージの拡散と関西における受容の多様性—報道から玩具まで—	G1-1
② 10:35 - 11:05	A1-2 松野吉孝 「尾上松之助主演・1000本作品」の、映画資料を活用した作品内容調査作業より・・・「透草公園・千代田館」封切り203作品内容の調査結果など・・・	B1-2 小松 弘 マックス・オフルスは『麻酔』（1929年）を見ただろうか	C1-2 金秀珪 1990年代後半以降の日本における韓国映画の受容	D1-2 田中 晋平 野田真吉と松本俊夫—1960年代末の観客運動をめぐって—	E1-2 貫 玲玉 デジタル時代における映像編集の拡張可能性：仮想空間とドキュメンタリーの融合に関する考察	F1-2 鄭知碩 福原悠介の『純行旅日記』における震災の知覚経験——風景・身体・カメラの透明性を通じて	G1-2 山端 健志 / かねひさ 和哉 家庭トーカー—録画映写機による紙フィルム映画の製作技法の解析と新作実演
③ 11:10 - 11:40	A1-3 丁 智恵 八木保太郎作品における帝国、植民地、冷戦の影響：『授業料』（1940）と『日本の子どもたち』（1960）の比較を通して	B1-3 今村純子 ロシア映画—アンドレイ・タルコフスキー「観」をめぐって	C1-3 原口直希 台湾人弁士の歴史的変遷（1920・70年代）	D1-3 戴 周杰 持続可能な映画祭に関する研究 —山形国際ドキュメンタリー映画祭を事例にして—	E1-3 前川道博 社会メディアとしてのコンピュータアートの系譜—CACとポストCACを中心に—	F1-3 青山 太郎 小森はるかの方法論：「画面の外」の成立条件についての考察	G1-3 川口 肇 Aether
11:40～13:10 昼休み				11:40～12:10 理事会（農学部B棟101教室） 12:20～13:05 第52回通常総会（農学部C棟101教室 ※昼食を取りながらの参加も可）			
④ 13:10 - 13:40	A2-1 戴 卉 戦前の清水安と小津安二郎の映画における子どもの表現	B2-1 新城 大地 男が階段を駆け落ちる時——1950 年代ハリウッド映画における傷ついた男性のスペクタクル化	C2-1 中村 葉子 NDU映画における被植民者の歌と語り『虐奴へ』（1971）と『アジアはひとつ』（1972）の分析を中心に	D2-1 銭 政印 寺山修司の実験映画における作爲性と物質性	E2-1 栗原康行 映像表現における抽象概念の具体化についての考察と研究 ～地域包括ケアシステム等に関する動画コンテンツの開発と実装研究～	F2-1 森宗 厚子 『広島・長崎における原子爆弾の影響』再検討—原爆被災の記録映画としての完全版フィルム保存の意義について	G2-1 景山 貴史 「工藤風土」～東京銀座～
⑤ 13:45 - 14:15	A2-2 匡 泉森 『浮草物語』と『浮草』の比較における音の役割に関する考察	B2-2 畑中 朋子 米国3都市の映画祭を比較する～地域コミュニティ特性・多様性を背景に	C2-2 宋振華 中国の無声映画における民族音楽の実践と聴覚的現代性	D2-2 斎 塚 カメラを持って街を歩く、久保田成子のビデオアートにおける歩行について	E2-2 小川直人 地域映像アーカイブは学校教育に使えるか——ひとつの現場（せんだいメディアテーク）からの考察	F2-2 田尻歩 変革の対象としての「hirou-jima」——広島デー実行委員会の写真実践	G2-2 猪鼻秀一 野生の美しき老体
⑥ 14:20 - 14:50	A2-3 王 子易 占領期と戦後民主主義が日本映画人に与えた影響—木下恵介と黒澤明を中心に—	B2-3 渡邊 ゆき ニュージーランドにおける多文化フェミニズムの映像的实践—『カインガ』（Kainga, 2022）にみる「家」、「家庭」と「故郷」	C2-3 趙 剛 ビデオ上映と検閲をめぐる攻防：1990年代中国視覚文化のアルケオロジー	D2-3 西川 秀伸 寛何効果とモンスター——ホラー映画におけるモンスターの役割について	E2-3 原田健一 映像と民俗学/民族学との間にあるもの—『沖縄久高島のイラブー』をめぐって—	F2-3 アルト・ヨアヒム 「戦争アニメ」の収集・分析・保存	G2-3 奥野邦利 映像アート『彼方のこちら側』における映画演出技法の活用について
14:50 - 15:10 休憩							
⑦ 15:10 - 15:40	A3-1 胡 晋樂 勅使河原宏映画にみる「脱走」の政治性——『サマー・ソルジャー』（1972）を中心に	B3-1 ZAKERI GHODRATOLLAH 日本とイランの初期映画における再発明の比較研究	C3-1 内山 翔太 現代日本の映画経験——尾崎翠『映画夢想』のフェミニズムの可能性	D3-1 橋本 典久 プラトーの映像装置研究：アノソスコープとライトドローイングを検証する	E3-1 馬場—幸 スマートフォンを用いた簡易な映画フィルムのスキャン	F3-1	G3-1 芦谷 耕平 ASpDashcaMan: No Way Home
⑧ 15:45 - 16:15	A3-2 北嶋 玲子 東映やくざ映画の予告編とその産業的戦略	B3-2 李 嘉倩 「ラフ・ヒーロー」の物語における共感的感情移入—『ジャッカルの目』の道徳的意義	C3-2 久保 豊 現代日本のクィア映画にみるモビリティと世界の渡り方	D3-2 趙 瑞 実験アニメーションにおけるデジタル時代の新たな自然観	E3-2 常石史子 映画の修復におけるイメージの真正性の担保	F3-2	G3-2 ブルベス・ジェローム 『La Porte des Filibondes』3DCGに於ける「手の知恵」
⑨ 16:20 - 16:50	A3-3 石毛 みさこ 連続テレビ小説『虎に翼』における映像描写の客観性と視聴者の共感：自己投影を促す演出手法の分析	B3-3 KARAMAT HAMZAH FARAZ アメリカ・アニメーションにおける「道徳的ベスカタリアン」：倫理的食の想像力と捕食—被食の共存	C3-3	D3-3	E3-3	F3-3	G3-3

※ 発表者はセッション前の休憩時間に機材の動作確認を行ってください。